

年代	内容	回答
10代	湿原よりも上流に位置する場所で受けることのできる恩恵はあるのかどうか。	釧路湿原は、湿原をうるおす多くの河川を通じて、上流の自然とつながっています。釧路湿原に変化があるとその影響は上流の自然にもおよびます。例えば、屈斜路湖と川でつながっている湿原の水位や水質に変化が現れるという事は、屈斜路湖の水位や水質にも変化がおきているという事だと思えます。また、湿原の魚の中には、上流に行って産卵し、子孫を増やす種類もいます。湿原がなくなると、そのような魚に上流で出会うことができなくなってしまいます。つまり、豊かな自然が維持されている湿原から様々な恩恵を受けることができるということは、湿原とつながっている上流の自然も豊かに維持され、そこから様々な恩恵を受けることができるということではないかと思えます。湿原と上流の自然は水を通じて密接につながっているのだと思えます（新庄 久志）。
40代	市の政策（湿原との共生、湿原と観光）ともロングトレイルなど将来的な収入ともバッティングし、地域の将来的な負荷（不法廃棄、その処理費用）であり、有害物質を含むパネルが津波で流れたり、地域のエネルギーともならない（送電は札幌へいく）太陽光パネルを心配、イヤがる声がよくきかれるようになってきて、市民ができることは何か。市は何ができ、何を進めているのか。	釧路市は現在、太陽光発電施設の設置に関するガイドラインを作りました。ただ、ガイドラインでは弱く、条例を作って、貴重な環境を保護する必要があります。可能ならば、市自ら、タンチョウやキタサンショウウオ、オジロワシなどの貴重な生物の生息地マップを作成し、公開することが大事だと思います。市民もこうした動きに関心を持ち、監視、協力してくれることが大きな力になると思います（中村 太士）。
10代	環境経済学を学びたいと思っている高校3年の者です。九州大学に設置されている共創学部で学べる分野とはどのような違いがあるのか教えて下さい。	環境経済学を学べる学部の一つとして、経済学部があります。経済学部では、まず経済学というツールを広く習得し、経済学の観点から環境に関わる諸問題を解決しようというアプローチをとります（環境経済学）。一方、九州大学共創学部では、環境問題を解決するために必要な工学・法学・歴史学・地理学などの様々なツールを自分でカスタマイズして学び、組み立て、解決策を探っていくというアプローチをとります。そのため共創学部では様々なツールを、それらが環境問題解決のためにどう活かすことができるかを考えながら学んでいくこととなります。もちろん経済学もそのためのツールの一つとなりえます。九州大学の共創学部には経済学を専門とする教員が4人所属しており、そのうち2人は環境経済学を専門の一つとしています（木附 晃実）。
30代	ソーラーパネルの期待寿命は30年以上と言われる。釧路のソーラーパネルの一部はいずれ解体されると推測されるが、跡地の理想像を伺いたい。	解体された跡地がもともとどんな生態系だったかに依りますが、可能ならば、湿地や森林などの元々あった生態系に戻してやるのが良いと思います（中村 太士）。
30代	ソーラーパネル建設後も環境配慮の余地はあるか？	設置後の配慮措置は限られてきますが、たとえば盛土はしない、地表面を改変せず下層植生を維持する、などでも、少しは影響を緩和できるかもしれません。ただ、そうした研究は進んでいません（中村 太士）。

40代	<p>釧路湿原の「第2次」総合調査をやらないのでしょうか？調査の精度・技術、生物種の分類法等、当時とかなり変わったと思います。…やっぱり予算的に厳しいのでしょうか…</p>	<p>釧路湿原総合調査以降の湿原についての自然環境調査は、現在、自然再生事業の取り組みを通じて、様々に人々によって、生物調査、水収支調査、河川環境などについて、モニタリング調査（湿原の変化を知る調査）進められています。釧路湿原の生態的变化を知るきっかけとなったハンノキ林についても、その後、ハンノキ林のしくみ、形成過程などについての調査・研究が行われ、ハンノキ林が、湿原の変化を知る指標の一つであるとともに、ハンノキが、樹林の形成を通じて、丘陵地から湿原に運ばれる土砂や水の栄養塩類などを制御し、湿原をうるおす水質の浄化に寄与していることなども明らかにされつつあります（新庄 久志）。</p>
40代	<p>釧路湿原や湖に流入する栄養塩について。それを減少させる根本的な解決策が必要ではないかと思います。酪農は海外から輸入した飼料を大量に乳牛に与えるため、道東のチッソ。リンは非常に過多であると思われます。例えば近年温暖化しているため、道東でも畑作を増やし、酪農で出た栄養分を循環させるなど、産業を変化させる事も大事ではないでしょうか？</p>	<p>産業の変化は非常に重要な観点です。私たちの研究でも産業の変化が及ぼす影響についても考慮しようと試みております。気候変動（温暖化）や少子高齢化、農業の高度化によりどのような産業（土地利用）が、環境のみならず産業（経済性）という観点で地域に良いかという点は現在と大きく変わると考えられます。これまでに最適であったものが将来も最適とは限りません。産業の変化が環境のみならず経済的にも恩恵をもたらす可能性は十分にあります。その点を研究により明らかにすることが出来れば、ご提案のような産業の変化については適切な栄養分の循環が達成されると思います。引き続き研究を続けて参ります（渡部 哲史）。</p>
50代	<p>（難しい問題ではありますが）湿原をはじめとする環境保全と併せて、我が国の課題である国土強靱化（防災、排水性向上、鳥獣被害防止など）への取組も同時に求められているところだと思います。もちろん、これまでも沈砂池や直線化など取り組んできたところですが、新たな方法などがありましたら、是非聴きたいです。</p>	<p>日本最大の湿原である釧路湿原がもつ洪水貯留機能を最大限に生かすことが重要です。そのためにも、釧路湿原を保全していくことが、釧路市の防災、安心・安全な地域づくりに欠かせないと思います（中村 太士）。</p>
60代	<p>九大荒谷先生、ネオニコチノイド系農薬の都道府県別使用量のたて軸単位は何でしょうか？絶対量でしょうか、単位面積あたりの量でしょうか？</p>	<p>縦軸は正確には出荷量です。単位はtまたはKLです。正確な使用量は数値化しにくいので、はっきり集計できる出荷用を用いています（荒谷 邦雄）。</p>
40代	<p>とても素晴らしい講演会をありがとうございます。今回のこの機会をいただきまして依頼があります。未就園児の親子対象の湿原フィールドワークの実施をお願いいたします。子どもは理解が難しい内容はあると思いますが、「親」向けに湿原の重要性と動植物について、意見交換会も含めてどなたか実施していただけますか？もっと市民町民の環境意識を高めたいです！！気温上昇1.5度までおさえる2030年まで時間がありません！！</p>	<p>未就園児の親子を対象とする湿原フィールドワーク実施の提案は、素晴らしいと思います。それにふさわしい、適切なフィールドもあります。実施のためのプランを作成するにあたっては、私（釧路国際ウエットランドセンター主任技術委員）もおおいにお手伝いさせていただきたいと思いますし、釧路湿原国立公園温根内ビジターセンターのスタッフの方々もご助言して下さると思います（新庄 久志）。</p>
無記入	<p>他の地域での子ども達への環境教育事例と効果について教えて下さい。今回の釧路を他のところで実施していれば効果を教えてほしい。</p>	<p>子ども達への環境教育は日本各地で行われており、一般的に環境に対する知識のみならず、環境に対する考え方や行動まで変化させると言われていますが、環境教育の効果を定量的に評価した事例は少なく、今回の釧路でのプロジェクトを皮切りに、今後の研究の蓄積が待たれています（木附 晃実）。</p>